

第4学年1組 道徳科学習指導案

1 主題名 思いやりの心 内容項目 [B 親切, 思いやり]

2 ねらい 母や栄一の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的、多角的に考えることを通して、相手の気持ちを自分のこととして考え、親切な行為を自ら進んで行おうとする態度を育てる。

教材名 「一輪の花」(出典:「彩の国どうとく みんななかよし」埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題の内容項目【B 主として人とのかかわりに関すること】の【7 親切, 思いやり】は、よりよい人間関係を築くうえで求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心をもち親切にすることに関する内容項目である。これは「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」の大切さに子供たち一人一人が気づくことがねらいとなる。そして、高学年の内容項目「誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。」に繋がっていく。

中学年の児童は、学校生活を中心として友達同士の交流が活発になるとともに、活動範囲も広がり、様々な人々との関わりが増えていく。その中で相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになっていっている一方、他の人々の感じ方や考え方が自分たちと同様であると思いがちになることもこの時期の特徴とも言われている。

指導に当たっては、相手の置かれている状況や思いを自分のこととして想像することによって、相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるように指導していく。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、他学年の給食準備を手伝ったり、困っている友達に手を差し伸べたりと、相手のために行動することができるようになってきている。一方で、それらの行動が教師から認めてもらうためや、言われたからやるといように外的要因が多いようにも感じられる。また、トラブルになったときには相手の感情を考えずに、自分の被害のみを伝える児童も多い。そこで、本時の学習を通して、自分のことだけでなく、相手の気持ちを考えて行動することの良さや尊さについて考え、進んで親切にしようとする態度を育みたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、長く重い病にかかっているりんのもとへ通う母(価値理解)とそれを拒む栄一(人間理解)の気持ちを考えることで道徳的価値についてより深く考えることができる教材である。

本時においては、りんのところに行きたがらない栄一と、りんに対して親切にする母の気持ちを見取りながら、相手の置かれている状況や気持ちを思いやって行動することの良さについて考えさせたい。

子供たちは相手に対して親切にすることが大切なことであることは理解している。本時では、栄一の気持ちに寄り添って考えることで親切にできないことがあるという人間の弱さに気づかせるとともに、母の気持ちを想像することで親切にするために大切なことについて児童が多面的多角的に考えることを通して、価値を深めさせていきたい。

4 学習過程

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 落ちたハンカチをみたらどうしますか。	・拾う ・わからない	・自分事としてとらえられるように、問題意識を高める。
	親切にするときに大切なことってなんだろう。		
展開	2 教材を読み、話し合う。 ○「ぼくは行きたくありません。」と言ったのはなぜでしょう。 ○自分のへやにもどった栄一は、どんなことを考えていたでしょう。 ○お母さんはなぜ親切にできたのでしょうか。 3 自己を見つめ、振り返る。 ○振り返って、これまでとこれからを考えてみましょう。	・うつるかもしれない。 ・すこしこわい。 ・なんでいくの？ ・お母さんはお医者さんの言葉を信じているんだ。 ・りんが喜ぶことを考えていたんだ。 ・お母さんはすごいな。 ・りんが喜ぶことが大事だから。 ・りんが苦しいことをわかってあげたから。 ・りんのさみしさをどうにかしてあげたいと思ったから。 ・思っていることを考えられるようになりたい。 ・その人の気持ちを考えて行動したい。 ・勇気をもって行動したい。	・人間理解を深めるため、栄一のような心が誰にでもあることに気づけるように、いろいろな意見を取り上げる。 ・母の言葉から、親切にするときに大切なことのきっかけになる言葉を見つけられるようにする。 ・母がりんに対して行動した時の思いを考えることで、親切にするときに大切なことに気づけるようにする。 ☆親切にするときに大切なことについて多面的・多角的に考えている。(発言) ☆親切にするときに大切なことについて考えを深め、これまでの自分を振り返り、これからの生活で生かしていこうとする気持ちを、ノートにまとめたり、発言したりしている。(ノート・発言)
終末	4 教材文の終末を聞く。 ○このあと、栄一はどのように生きたのでしょうか。		

5 他の教育活動との関連

事前指導	道徳科	事後指導
(4月 学級活動) ・1年生を迎える会 ・離任式 転任した先生方 (5月 国語) ・白いぼうし (7月 給食準備支援) ・3学年の給食準備	(6月) ・心の信号機 (9月 本時) ・一輪の花 (2月) ・心と心のあく手	(11月 総合的な学習の時間) ・地域交流(高齢者) ・車いす体験 ・点字 (11月 社会科見学) ・電車の乗り方 (3月) ・6年生を送る会

家庭との連携
・学年だより、懇談会、面談などを通して子どもたちの成長を知らせる。 課題やよさを共有し、家庭とも連携して見守っていく。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・母が親切にした理由や根拠を様々な視点からとらえて発言したり、他の意見を受け入れたりしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・親切にするときに必要なことについて考えを深め、これからの生活に生かしていこうとする気持ちを発言したり、ノートにまとめたりしている。

7 板書計画

◎親切にするときに大切なこと

これまで

これから



落ちたハンカチ
拾う 拾えない

親切にするときに大切なことって？

○へやにもどった栄一

・お母さんはすごい
・喜ぶことをかんがえたのか

りん

栄一

母

・うつるかも
・すこしこわい
・なんで？

い

・早く元気に
・何かしてあげた